

埼玉県退職校長会
大里支部会報

おとさと

第56号

(題字は支部長)
令和6年2月1日
発行者
植竹豊

定年延長と退職校長会の活動

副支部長 鶴間 信好



人生百年の時代に、働く意欲・意志のある方が働き続けることができる定年延長の制度は素晴らしいものだ。

今年度より、令和十四(二〇三)年度までの十年間をかけて、教員の定年延長の段階的移行が始まっている。

そのような状況から、県退職校長会は役職定年となる六十歳の年度に入会勧誘を行うことを決めた。これまでと同様である。

入会される方は来年度からは勤務を続けながら、退職校長会の会員となる。昭和四十二(一九六七)年度生まれの方から五年間勤務が延長となり六十五歳で退職となる。これまでも、六十歳で定年退職を迎え、多くの方がその後も再任

用として学校や行政機関等で働き続けているが、フルタイムでない勤め方をされている会員も少なくなかった。定年延長の制度が始まると、勤務時間が六十歳以前と同様にフルタイムとなる。

退職するまでは、日常の勤務があるの、入会はしたものの、勤務日に行われる退職校長会の行事には参加することができないということとなる。

これまでも、退職校長会大里支部は多くの会員が出席できるように、平日に行われていた支部総会を土曜日開催に変更したり、役員会や理事会・委員会をできるだけ土曜・日曜開催にしたりしてきた。今後は同好会(写真、絵画、囲碁、水墨画)の活動も含めて、更に工夫をしていかなければならない。

植竹支部長のリーダーシップの下、県内外の情報を集め本支部の活動に取り入れていくことが求められる。新入会員が、退職校長会と疎遠にならないように、また、

退職後に活動の推進役となっていた、ただけるよう取り組んでいきたい。元埼玉県副知事で現在は昭和女子大学総長坂東眞理子氏の著書「七十歳のたしなみ」に、「義理欠く、恥かく、人情欠くの反対、義理がたく、恥を知り、人情厚くを心がけるのが高齢者のたしなみである。」と書かれている。高齢者を先輩会員と読み替えて、新入会員を迎えたいものである。

「彩の国教育の日」協賛

第四十四回大里地方教育推進協議会

令和五年十一月七日(火)「彩の国教育の日」協賛第四十四回大里地方教育推進協議会が深谷市民文化会館で開催された。参加者は総勢一二三名だった。

開会式では植竹豊支部長、関根達郎校長会会長から、それぞれ挨拶があり、来賓の深谷市長小島進様、深谷市教育委員会教育長小柳光春様、県退職校長会会長新井俊一様から祝辞をいただいた。

続いて協議に入り、提案1は熊谷市立荒川中学校吉田順一校長から「わたしが誇るまち 熊谷に学ぶ 日本一の荒中生の育成」のテーマで、I 学校教育目標の具現化を図るための地域との連携の取

◀「ザ・サクソフオー爺メン」演奏の様子



金井氏 川上氏 山下氏 栗原氏



▲ 吉田順一先生

組として、①コロナ禍における新しい職場体験②生徒会専門委員会

の充実③外部講師等と連携した取組の充実④地域団体と連携した学

校行事の充実⑤地域での生徒の学

びの充実、II 学力向上の取組、III

教員の働き方改革として、①教育

課程の見直し②サッカー型の働き

方への転換、IV学校経営の課題として、人材育成をあげ、具体的な方策を明確に発表した。そして感想発表を熊谷市立中条小学校中村真由美校長が行った。

提案2は深谷班栗原政廣氏が「趣味仲間と共に」のテーマで、サックスを通じた仲間との出会いと活動について、退職後音楽教室で学んだ仲間（栗原氏、山下武彦氏、金井利廣氏、川上彰氏）が二〇一七年八月に「ザ・サックスフォー爺メン」として週一回二時間の練習を開始し、カフェ、介護施設、学童クラブ、保育園等、様々な場所で演奏活動をしていると発表した。その後①「聖者の行進」②「君の瞳に恋してる」③「モーニン」④「明るい表通りで」⑤「ルパン三世のテーマ78」を、さらにアンコールに添えて、「虹の彼方に」を演奏した。そして感想発表を深谷班伊藤修氏が行った。

（文責 鶴間信好）



大里地方教育推進協議会

十一月七日の花言葉『飾らない心ーシンビジウム』の持ち主である植竹大里支部長をはじめとする深谷班を中心に、本協議会は退職校長の参加増を願いつつ、深谷市民文化会館小ホールで開催された。現職代表の吉田順一校長からは地域に根差し、「わたしが誇るまち、熊谷に学び、日本一の荒中生を育成する」ことの意義と難しさを、さらには管理職としての矜持についても学ばせていただいた。

退職校長代表の栗原政廣様には、「趣味仲間と共に」と題し、発表の中にサックス演奏会を組み入れるなど、これからの提案の在り方についても御示唆いただいた。そして、今日も行く（教育）所があるという協議会に参加できる喜びと幸せを実感する半日であった。

（文責 神田昌文）



シンビジウム

随想

第二の人生の仕事

熊谷東 加賀崎 公子

退職して十九年がたちました。退職当時、ご一緒に仕事をしていた方から「今、何をしていますか」「お仕事は、しているのですか」といったお尋ねをよくいただきます。

「熊谷駅から徒歩三分、熊谷市役所まで徒歩七分、法務局まで徒歩二分」これは、我が家の貸ビルについて、不動産屋さんが出している広告の言葉です。借りる方にとっては小さなビルが便利なように、現在、法律事務所、学習塾、建設会社、空手道場等が利用してくださっています。このビルについて、営業、管理等の細々とした仕事の多くを私が行っています。分らないことも多く、不動産屋さんの若い社員に教えていただきながら進めています。彼らは大きな味方です。また、入居している弁護士さん、空手道場や学習塾の先生からは、心の広さや人に対する配慮など多くを学ばせていただいております。



ところが、最近、永年この地域に住んでいた方々は高齢のため転居し、空き家や空き地が多く見られるようになりました。近くにあった大手の学習塾は駅からゼロ分の新しいビルに移転し、駅付近はビジネスホテルや高層マンションが多くなり、近隣のビルに少しずつ変化が現れてきました。

四く五分おきに走り去る新幹線、バスターミナルの多くのサラリーマンや学生達、ラグビータウン熊谷等、すべてが、大里、熊谷の発展の息吹を感じさせます。今後は商業施設も増えていくと思われま

人生百年時代、大里、熊谷の発展に期待をもって、今後もさやかに、第二の人生の仕事を進めていきたいと思っております。

「思う所」からの想

熊谷中央 大谷 恒男

熊谷空襲で焼夷弾の降りしきる中を逃げまわり、「生きる」ということに強い「想い」を持ち、戦争が終って、平和な時代を迎える

という期待の中で、「六十五才までは生きたい」と卒業文集に書いた。新しい世の中で、長生きをしてがんばりたい、ということだった。最近、人生を振り返ることが多くなったが、よく頭に浮んでくる「思い出」の一つである。

先日、中学卒業五十年記念のクラス会に招待された。彼等は現在六十五才である。過ぎし日のことはもちろんであるが、これからの人生について明るい希望をもって語り合う姿が強く印象に残った。今、六十五才は人生の一つの通過点に過ぎないことだと改めて実感をした。

それにしても、自分は「米寿」を過ぎている。老化が進み、体調を気にしながらも、散歩をしたり会合に出たりして、それなりにがんばっている。この姿は、自分の少年時代には想像もできなかったことなのだ。「人生五十年」という時から「人生百年」という言葉がよく語られるようになった現在、一代内という短い期間に、これほど大きな変化がおきているということは、驚きである。

戦争が終わり、貧しさから解放され、人々の気持ち安定し、医学を含む科学技術のめざましい発展があった。それにより作り出さ

れた豊かな社会が、人々の「生きる力」を育ててきた結果なのだろう。きびしい時期を経験しながらも平和で、この豊かさの中で、長らえた人生の大半を送ってこられた幸運を、ありがたく感じている。

ミイラ取りが

ミイラと成って二十年

熊谷西 小池 博

退職二年後に、市の嘱託職員として任用され、社会教育事業に携わった。

その頃、「学校週五日制の完全実施」に伴う休日の子どもの過ごし方が問題になった。市は、国・県の指導助成の下、その対応策の一環で「親子体験教室」を推進した。当時の文化庁（佐々木正峰長官・熊谷高卒）の推挙を得て、二年間の委嘱事業に取り組んだ。

テーマは「郷土の伝統文化に触れて、郷土愛や誇りを育む」ことで、親子による体験活動をたくさん用意した。その活動状況をNHKの教育番組に取り上げていた。その一つとして「市街地史跡めぐり」を企画して、参加募集した。

親子で、市街地七か所の指定史跡を三時間程度で自由に巡るスタンプリ方式にした。学習ポイン

トとなる七史跡には、それぞれ複数のガイドを配置する。そのガイド役を多数確保できるか否かが問題になった。そこで狙いをつけたのが、郷土史に通ずる強力メンバーを擁する郷土文化会であった。子ども対応のプロである教職員OBも多いこともあって、その対応が私に指示された。中学校理科教員であった私は郷土史とは無縁であり、誠に心許ない。そこで、円滑な運営と安全策に注力した。熊谷寺などの寺社側の全面協力を得ながら、郷土文化会員のガイドも適切で、参加者の評価が高く、成功裏に終わった。

その活動を契機に、郷土文化会への入会を誘われ、消極的な気持ちながら入会した。今や二十一年目を迎え、百四十名の仲間たちの多面的な活動運営に携わっている。

柔道への出会い

熊谷南 小柴 清

子供の頃からやりたかった柔道を埼玉大学柔道部入部で実現した。レベルの高い部員が多く、稽古相手には恵まれた環境であった。

四年の時、選手になれた。全国国立大学大会では見事優勝できた。卒業後、昭和四十年は高校の急



「キヌガサソウ」火打山にて

増期で柔道が体育の必修になった。行田工高の体育教師に職を得、柔道部顧問で好きな柔道ができた。

結婚し、江南町に住み、熊谷工高に転勤し、柔道部をつくった。しかし、市内では道場が無くなり少年達が柔道をできなくなった。

そこで、市内の若い三人の柔道指導者で「柔道教室」を開き、底辺の拡大を図った。

一般の柔道好きな人も次々に集まり、盛況になった。教室も江南大里、妻沼と増えていった。

私は子供達に、柔道を指導してそのエネルギーには驚いた。本来ならば高校生の方があはずだ。私は高校教育の大きなテーマをい

熊谷工高では関東大会団体戦に三度出場した。重量別の試合では本人の希望で減量させた。しかし、失敗することが多かった。試合前、私の家に選手を預かり、減量が成功し、県代表で国体に選手で出場出来た。妻の協力で感謝している。

教員の経験を積んで三十九歳の時、教育経験もエネルギーも今を逃したくないと考えて、新設校の課題を解決するため希望して転勤した。今までの経験を生かして、教科の柔道では柔道の推進校（文部省指定）や学級経営を中心に実践した。この貴重な取り組みが管理職になる切っ掛けとなった。今も、柔道との出会いに感謝している。

ありがとう 学校給食

熊谷北 青木 絹子

初任者指導五年目、熊谷市内の二校の小学校に勤務している。

一食二百八十円の慣れ親しんできた学校給食にお世話になれるのも今年で最後。栄養バランス満点豊富なメニューの給食は、昔よりずっと工夫されていて美味い。

このありがたい給食とも、あと半年。何とも寂しい限りだ。どの学校でも子どもたちは給食を楽し

みにしている。手を合わせ「おいしい給食いただきませう」とうれしそうな表情を見せてくれる。

この笑顔のために給食センターや給食室で働く皆さんは、少ない予算のやりくり・暑さ寒さ・安全面等、日々戦ってくれている。本当に頭が下がる思いである。

今年、コロナ制限も緩和され、四年ぶりに無言前向き給食：からやとと本来の和やかな班給食にもどれた。自分も班に入れてもらい楽しく給食をいただいている。

昭和五十五年から、縁あってずっと熊谷市で勤務させてもらっている。長い教員生活、思い出も数えきれないほどある。教え子たちとの楽しい給食は、自分を支えてくれた『心の栄養、心の安定』であり不可欠のもの。大切な宝物だと今、改めて心から感謝したい。

センター給食も自校給食も汁物やカレー等は熱々だし、ラグビーメニューや地域にちなんだ新メニューもうれしい。現職の頃とちがって今の自分は重責もとれて、週三日勤務のため、心にゆとりがあるからなのか、余計に日々おいしく感じるのかもしれない。

今日も子どもたちと同じく給食が待ち遠しい。もうすぐチャイムが鳴る。今日のメニューは？



「クロユリ」白山にて

東京の休日

深谷北 飯田 明

秋晴れの午後、旅に出たくなりました。そこで、電車に乗って東京に出かけました。校長を退職する三月、電車にりましたが、それ以降コロナ感染防止のため電車に乗らないようにしていました。

吹上駅発十二時二十一分の上野東京ラインに乗り、十三時三十二分東京駅に着きました。東京駅八重洲北口を出て、大丸一階に入りました。予定していた「ずんだ茶寮」で「ずんだシェイク」三百六十円を飲みました。十四時丸善日本橋店、その後、日本橋高島屋本店地下一階を散策しました。十四時三十六分、以前より入りたかった「日本橋金子半之助てんぶ

ら店」に並びました。一時間後の十五時三十五分に入店できました。「半熟たまごのてんぶら」から始まる「天ぷらめし」千三百八十円は安くておいしかったです。十六時二十分福徳神社にお参り、その後三越日本橋本店の一階ブランド品と地下一階の土産物売り場を散策しました。その後、日本橋から京橋まで歩きました。途中、ビル群の中を流れる風が気持ちよかったです。十七時京橋の明治本店に入りました。コロナ以前は百円でサービズジュースが飲めましたが、今はありませんでした。残念です。その後、丸善日本橋店に戻り、本を買って、東京駅発十八時三十分の高崎線に乗り十九時三十八分吹上駅に着きました。

今回、八重洲のスターバックス店に入ろうと考えていましたがありませんでした。大きく変化する東京駅付近に驚くとともに、この変化をこれからも見ていこうという気持ちになりました。

今の私の三つの楽しみ

〜ラグビー・札所・孫〜

深谷北 新井 英男

現職の時は、子供たちの頑張る姿を見ること、学校ホームページ

の毎日の更新が楽しみであった。再任用校長を終えて二年が過ぎようとしている今、私には三つの楽しみがある。

一つ目は、ラグビー観戦である。教員になったばかりの頃、熊谷荒川河川敷で県の高校ラグビー大会が行われていた。その頃から、ラグビーを見るのが大好きになった。近くで見る迫力とスピード感が大きな魅力である。今は、埼玉ワールドナイツのファンクラブに入り、シーズンシートを購入し、リーグワンの試合を毎回観戦している。

二つ目は、札所巡りである。現職の時から秩父札所巡りをしてきたが、今は坂東札所巡りを行っている。関東の様々な寺をゆっくり回っている。坂東札所の周辺には関東を代表する有名な観光地も多く、大変魅力的である。

そして三つ目が孫の世話である。同居していないが、今、二人の孫がいる。ほぼ毎週日曜日には息子夫婦が孫を連れて夕飯を食べにやってくる。さらに、毎週水曜日に保育園に孫を迎えに行き、我が家で夕飯を食べさせ、風呂に入れて息子の家へ送っている。高崎市出身の歌人・吉野秀雄は、「電話ありて孫の来む日は待ちに待ち突然来ればいやましにうれし」と

詠んでいるが、まさに同じ気持ちだ。「じいじ！」と呼ばれると何でもしてしまふ。孫に甘すぎるかもしれないと思いつつも、つい孫のために自然と動いてしまふ。今後も余裕ある時間を有効に使って、現職の時にできなかったことを思い切り楽しんでいきたい。

永遠に生きるかのように生きていく

深谷中 福島 陽一

現在の時刻は、午前三時半。

『そろそろ起きるか。』と布団の上でストレッチを行って、いざ起床。それから、身支度と食事をして職場に向かう。この様な生活スタイルに変わってから早三年。健康維持と社会貢献を目的に仕事に就いたが、これが殊の外自分に合っている様で苦になる事もなく、日々職場の同僚と有意義な時間を過ごしている。ただし、同僚と言っても同年代よりも若い人が多くいる中ではあるが、互いに教え協力し合いながら行う仕事は、とても実感がある。

さて、そんな折りに職場でストレスチェック調査があった。その結果は『あなたはストレスをあまりかかえておらず、またストレス

の原因となる要素もあまりないようです。』であった。それには、我が伴侶と家族、そして、職場の人々に心から感謝したい。

最後にこれからも、新たな発見と出会いの中で「永遠に生きるかのように学べ」を忘れずに、日々暮らしてゆきたいと思う。

知っていることは愛する

寄居 町田 たか子

昔、赴任した学校が愛鳥モデル校の指定を受けた。山あり広い農地と川に面したこの環境に目をつけ選ばれたかと感じた。児童と共に学んでいこうと取り組みを始めた。校内の種々の行事をはじめ、クラブ、委員会、講話、スライド映画観察会、探鳥会など……

ある時、「鳴きまね大会」をすることになった。講堂の舞台に林や畑の背景を映し、その前で真剣に好きな鳥になって囀ると拍手喝采を受け息をのむのであった。

後日二年生の担任教師から話があった。その子はおとなしい目立たない女の子であった、が以後しだいに笑顔が多く声も大きくなり生活・学習に活気が見えてきたと喜びの声であった。もちろん予想以上の反応に感激した。観察会の

指導者の「鳥を見て覚えてたらそれを殺そうという人いないよ」という強い言葉が思い出された。この子のように環境の、自然の生き物や植物に関心を示し成長する姿を想像するのであった。

次は昭和五十七年、町の花として「かたくり」が指定された。すると間もなく重機にて盗掘されたとの情報が流れた。町当局としてはすぐに見張りや看板設置等対処を始めた。まもなくボランティア活動に移行し「かたくりを守る会」ができた。初代会長の森三郎氏の「知ることは愛することである」の言葉のもとに、かたくりの保護育成と自然保護意識高揚に向け「観察会」「環境整備」「住民への啓発」等と活動が進んでいった。地域の群生地は山の地主・地域住民の理解により美しき花々に癒され、人々の集まる場所となった。



「ライチョウ(メス)」大日岳にて

同好会だより

写真同好会

岡部 弘行

例会会場はさくらめいとのお会議室です。ここ数年、Aさんは山岳写真、Bさんは地域イベントのドキュメント、Cさんは旅行先でのスナップなど、それぞれの作風が定着専門化しその分野で輝いています。撮影裏話を聞くと写真の見方も変わりもう一度見直すと先ほどとは違った写真に見えてくるのも楽しみです。写真は五月の例会の様子です。新入会員をお待ちしています。



囲碁同好会

深田 忠雄

◎第三十三回大会 五月二十七日
 優勝 林 健次(熊谷中央)
 準優勝 来間平八(熊谷西)
 飛田典保(熊谷西)
 深田忠雄(寄居)

◎第三十四回大会 十一月十一日

優勝 林 健次(熊谷中央)
 準優勝 来間平八(熊谷西)
 飛田典保(熊谷西)
 山室鐵夫(熊谷西)

黒白の石を交互に打って、囲んだ広さを争う楽しい囲碁ゲームを始めてみませんか。
 初めは、知っている人に、ルールを聞き、パチパチ打っているうちに、勝ちたい欲が出たら、易しい碁の本を読み、新聞碁の切り抜き帳を覚えて、並べてみる。
 同じ位の棋力の人と打つ回数を増やす、続ける、工夫するなど努力を重ねることが上達の道です。
 頭の体操として続行しましょう。

絵画同好会

原口 一明

絵画同好会の主な活動は、風景絵、静物画、人物画制作です。また、十月には、水墨画同好会の皆様と合同の作品展を開催しています。
 さて、絵画制作の醍醐味は、何と言っても、作品に集中できることです。そして、同好会の方々と

作品について、お互いにコメントを交しながら、様々な話題の語りをするのが最大の楽しみですね。
 経験者だけでなく、描くことに興味があつて活動している方々もおります。油彩画、水墨画などに興味のある方は、どうぞ気軽に活動を覗いてみてください。お声がけください。

水墨画同好会

小林 芳雄

会員二名で活動をしています。昨年度に続き絵画同好会との合同発表会を、十月六日から八日まで熊谷市民ギャラリー(熊谷市立文化センター)で開催しました。その時の展示作品を二点紹介します。水墨画に興味のある方、是非一緒に活動してみませんか。



「古刹の門前にて」並木 茂



「朝顔」小林 芳雄

役員・理事研修会

誠之堂・清風亭移築までの道のり

令和五年九月十日(日)、深谷市大寄公民館で開催されました。

当日は天候にも恵まれ、昨年度に引き続き、関係の皆様参加により開催することができました。

公民館の敷地内に、渋沢栄一翁ゆかりの誠之堂と清風亭が世田谷区瀬田より移築されています。当日は、豊里公民館長石川博様より、この地で蘇るまでの数々のエピソードをドキュメンタリー番組やドラマの映像も交え、わかりやすく御講義いただきました。

誠之堂は栄一翁の喜寿を祝い、大正五年に建築されました。また、清風亭は、第一銀行で栄一翁を継いで二代目頭取となった佐々木勇之助氏の古希を祝い、誠之堂と並べられて建てられました。いずれの建築も第一銀行行員の出資によるものだそうです。

さて、二つの建物の移築の話は、講師の石川館長が教育委員会社会教育課の文化財保護係長だった平成九年九月三十日、一本の電話から始まったことです。「栄一翁ゆかりの建物が取り壊されてし

まう。深谷市に救っていただけな
いか。」との電話が清水建設技術研
究所の方から入ったそうです。そ
の時点で誠之堂や清風亭は誰も知
らない状況。早速、当時の石川係
長が現地向いいたところ、何と
市長も急遽現地入りされて、移築
の話は即決だったそうです。

建物は上敷免の刻印の入った深
谷製の煉瓦造りで、コストと時間
の節約を考えて「大ばらし」と呼ば
れる、ユニット住宅のように壁を
単位として切り取って、運搬・移築
する方法がとられました。

分解から組み立てまでの様子や
栄一翁の功績などを、貴重な資料
写真や映像とともに、時を超えて
栄一翁ゆかりの地に帰ってきた二
棟の重厚でありながらも繊細な佇
まいを堪能しました。(文責 丹羽大恭)



第二十四回 秋季親睦ゴルフ大会

令和五年十一月十六日(木)、
上里ゴルフ場に十八名の参加者が
集まり秋季大会を開催しました。

久しぶりの再会もあり思い出話
に花が咲きました。爽やかな秋晴
れの下、珍プレー好プレーに歓声
がわきました。

大会の結果は、次のとおりです。
・優 勝 猪野 和幸(熊谷南)
・準 優 勝 島崎 一雄(深谷北)
・第三 位 関根 隆夫(熊谷東)
・ベスグロ 小林 晃一(熊谷南)
初めての方も大歓迎です。多く
の皆様の参加をお待ちしています。
(文責 小林晃一)

計 報 令和五年

氏 名	年 齢	逝 去 月 日	地 区 名
圓岡 茂夫	89	1・14	深谷北
笠原 健司	63	7・22	熊谷西
真下 義明	84	8・2	深谷中
島谷 信夫	77	9・21	深谷中
水野 四郎	93	10・1	深谷中
金子 泰	82	10・3	深谷北
新井 健二	85	10・18	熊谷東
浦部 豊	76	11・4	深谷中
阿川 甫吉	86	11・9	寄 居
塚本喜一郎	76	11・29	熊谷東
飯島 和夫	93	12・5	熊谷南

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

地区だより

小江川(おえがわ)千本桜

熊谷南 原口 一明

熊谷江南の自慢と言えば、埴
輪踊る人々、「野原の文殊さま・
知恵の文殊寺」、ホタル祭り、藤の
花、栗、ブルーベリー、大豆の生産
などなど、枚挙にいとまがない程で
す。このような名所、特産物の豊
富な江南地区は、熊谷市の南西
部に位置し、自然豊かな里山を有
し、「熊谷の軽井沢」と言われてお
ります。

ところで、熊谷は古くから桜の
名所と言われ、熊谷桜堤は「日本
さくら名所百選」の一つでありま
すが、ここで皆様に、江南地区「小
江川千本桜」を紹介いたします。

小江川千本桜事業は、熊谷
市小江川地区の住民によって
二〇〇九年より始められました。
同事業は、市内でも希少となった
小江川地区の七・四ヘクタールの
森林(里山)を保全し、桜の名所と
して再生する活動内容でした。も
ともと対象となった森林は四十年
以上放置されており、荒れ果てて

不法投棄が見られるなど防犯や
景観面で地域の課題となっていま
した。同地区の地権者の承諾の
もと、三百六十名の同地区会員
で「神代曙(ジンダイアケボノ)」
という品種の桜を毎年百本ずつ
十年間植栽を行っていったのです。
それぞれの木には桜の里親が付
けた名前のプレートが建てられ、十
年間で植えられた桜は千十六本
にも及び、市内の桜の名所の一つ
になっています。

植樹だけでなく、森林の保全や
全長十二キロメートルのハイキン
グコースが整備され、四十年ぶり
にホタルが復活し、オオタカや
巣が確認できるとのことです。



みんなの広場

短歌

時の流れ

寄居 木島 千恵

開校し百五十年の式典に

時の流れの重みを思ふ

跳躍に老若差ありと思ひつつ

ラジオ体操第一しをり

大手術あれこれなしたる日もありき

米寿迎ふる夫と乾杯

絵画



「婦人像」 深谷南 野澤 優

水墨画



「白樺の径」熊谷北 小林 芳雄
(第4回日美展臨画の部 入選特別賞)



写真

「アカヤシオ」四ツ又山にて

熊谷北 田野 昭一

陶芸



「陶器二点」

寄居 鴻野 年伸

「備前緋櫻湯呑」

「信楽黒天目釉茶」

編集後記

広報誌五十六号をお届けいたします。

会員の皆様の充実した毎日と大里支部の生き生きとした活動を、紙面を通してお伝えできることを喜ばしく思います。「随想」では、様々な取り組みや思いを、また「みんなの広場」では、目と心を楽しませる多彩な作品をお寄せいただきました。皆様のご協力に厚く御礼申し上げます。

令和5年度 広報部員

- 島裕 (熊谷北)
- 池正 (深谷中)
- 元敏 (熊谷東)
- 秋行 (熊谷中央)
- 新英 (熊谷西)
- 稲俊 (熊谷南)
- 原一 (熊谷北)
- 内田 (深谷北)
- 小柳 (深谷南)
- 丹木 (深谷南)
- 羽大 (寄居)

埼玉県退職校長会大里支部会報

(第五十六号)

発行 令和六年二月一日

発行者 支部長 植竹 豊

印刷所 株式会社 博文社

熊谷市本石二一三三四

〇四八(五二)三〇六三

本文中の挿入写真は、写真同好会の田野昭一先生より提供していただきました。山と花が好きな先生が登山のかたわら撮影された貴重な写真です。